飯糧救助米　四十六石五斗八升
小屋掛料杉丸太　二百八本
板　八十二間
受救戸数　百二十四戸

二、田畑収穫損害救助米ヲ受ケタル額及戸数人員

救助米　八十七石九斗九升
種穀料　十七石八升
受救戸数　百五十三戸

(3) 北但震災

地震発生とその概要

北但震災の概要を『城崎郡役所事績録』でみると次のようである。

大正十四年（一九二五）五月二十三日は朝来曇天にして、風位は南の軟風、天候何となく陰気の兆ありしが、午前十一時十分突如として地下鳴動し、刹那東西の水平動に上下動の伴ひたる烈震襲来し、其の度数は二秒乃至四秒毎に通じて四回動揺せり。震源地は神戸測候所・豊岡出張所の観測に依れば、円山川河口凡そ一海里乃至二海里の沖合海中なるがごとし。

震災区域は、豊岡町、（中略）竹野村・奥竹野村・中竹野村、（中略）の十六箇町村に及び、被害の最も深刻なりしは、城崎町・豊岡町・港村とし、之につぐを内川村・竹野村・田鶴野村とす（図50）。

『北但震災誌』から、竹野谷四カ村の被害状況を表97としてあげた。その外では、中竹野村の鬼神谷橋・堤防

図50　北但地震震央地附近略図
（『北但震災誌』）

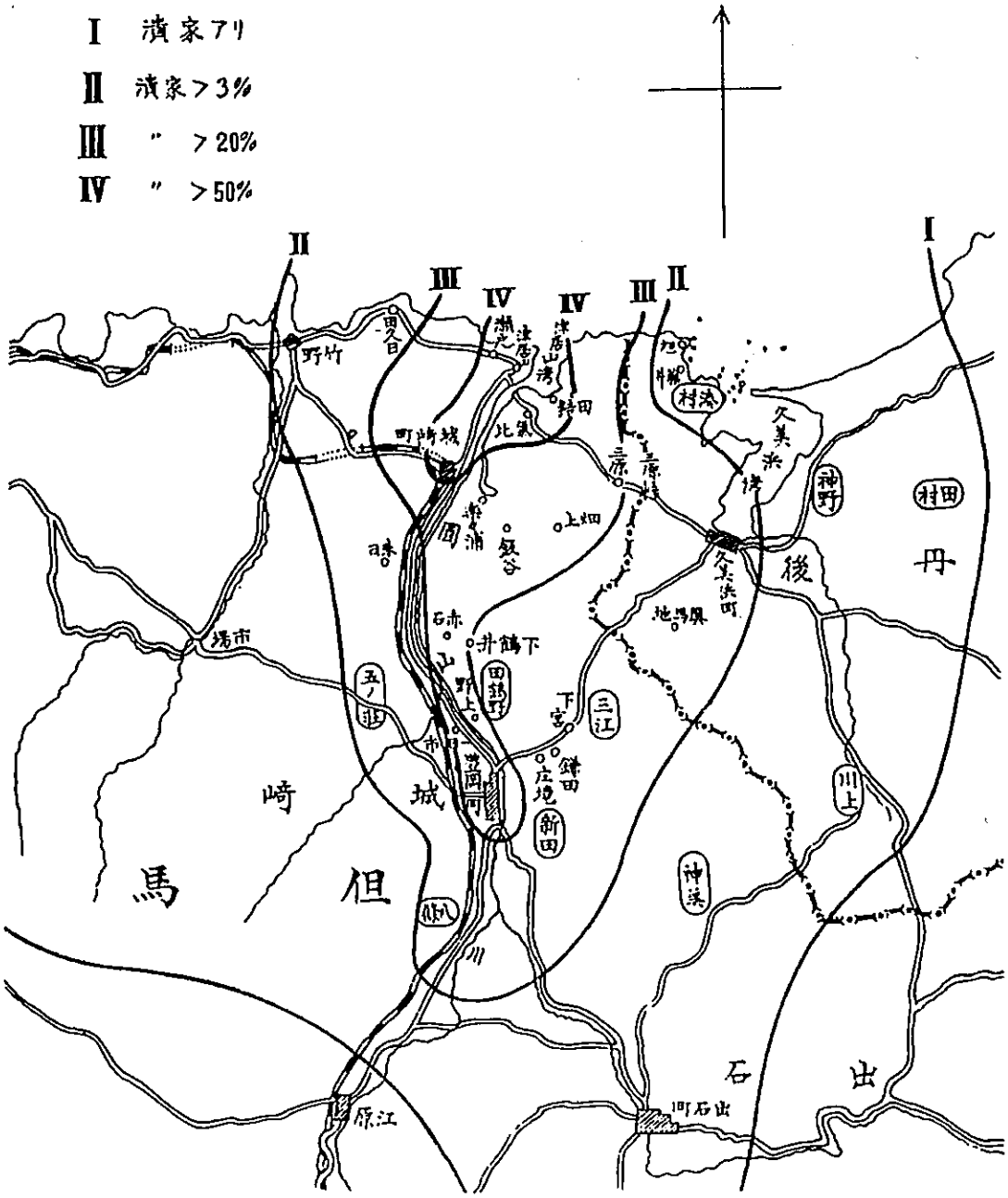

表97　北但震災の罹災家屋並びに人口

区分／村	罹災家屋				罹災人口			
	被害者戸数	全壊	半壊	破損	罹災前人口	死者	傷者	行方不明
竹野村	648	31	61	199	3,540	—	18	—
中竹野村	405	—	11	394	2,531	—	—	—
奥竹野村	318	—	—	—	1,545	—	1	—
三椒村	202	—	—	—	1,131	1	—	—

（「北但震災誌」）

七カ所と、竹野村の新橋・竹野橋・堤防二カ所、竹野小学校・鷹野神社・八坂神社が被害をうけた。

竹野村の被害状況

地震発生を聞いて、急いで大阪から帰り、竹野のほか城崎・津居山まで見舞いに回り、その状況を大阪に知らせた。その手紙の差出人は橋井仙太郎で、次に転記するのはその一六枚のうち竹野に関係する部分である（豊中市・橋井正男蔵）。

○第五信　午前四時夜行列車にて無事竹野へ着きました。橋井親族皆無事に諏訪神社へ避難をしてゐられた。角力場・桑畑へムシロ・天幕・ゴザ・フロシキ・戸板、思ひ思ひに小屋を作り避難中。村民避難場、西町諏訪神社・上町ギオン・天神社内・東町小学校庭。丸ツブレ、大工の伝さん家、橋徳は前につぶれた。天神前の又次郎の家前へくの字に倒れかかる。永田萬の高へいツブレタ。竹野橋は東方が少しく落ち込む。彦三の前キレツ三寸余り落ち込む。久四郎の家ネダ落ちた由。五市郎の前少しくワレタ由。仙五郎の店方、家が土台共三寸ほど動きタンク一ケ割れ家少しくかたむく。コンクリートがこわれた。井戸は砂一パイにて水出ず。一番はげしいのは八木の家附近とギオン町であります。

復旧への対応措置

大正十四年（一九二五）十二月、竹野村は震災復旧にあてるため、起債の案を審議した。その内訳は「小学校復旧に一万三〇〇円、隔離病舎復旧に五〇〇円、合計一万八〇〇円を県から無

利息で借入れ、五年間据置き二五カ年賦償還する」というものである。さらに翌年三月の村議会で、震災土木復旧費一万八、六〇〇円の起債を審議した。その内訳は、宇日・田久日への村道復旧、宇日川・須井川の堤防復旧費である。その理由書には、「殊ニ田久日ノ如キハ、延長百六十間幅員九尺ニ及ブ大亀裂ヲ生ジ、崩落セル岩石ハ田畑ヲ埋没ニ帰スル（中略）。宇日・田久日ニ通ズル村里道ハ数ケ所崩壊又ハ亀裂ヲ生ジ」と窮状を訴えた（『竹野村議会議事録』）。

援助と復興

この大水害に対して各方面から救援が寄せられた。まず、恩賜金は竹野村に四二八円、中竹野村に二九円頒布された。各宮家からも御下賜金が分配され、義捐金は二回にわけて交付された。租税徴収を延期する特例が設けられた。荒地になった田畑と倒壊した家屋の宅地についての措置で、竹野村に該当者があった。漁業関係罹災者には、一般的救援のほかいか釣具一式が支給された。これには集魚灯・網付属品・いかりが含まれており、竹野村の該当は四人であった。農業関係者には農具が配給された。一戸あたり金鍬と薄鎌を三丁ずつ、三本鍬と厚鎌を一丁ずつ支給された。竹野村では一一人、中竹野村では一人がこの恩恵に浴した（『北但震災史』）。

(4) いろいろな病気

はびこる伝染病

大正期にはいっても、伝染病はいっこうに衰えなかった。竹野村の場合病気別にみると、腸チフスが八回、患者一二一人、死亡六人。パラチフスが五回で一三六人、四人死亡。そのほかに、コレラ・赤痢・ジフテリアがそれぞれ一回記録されている。

『竹野村事務報告書』では、「大正五年中伝染病患者ハ腸チフス一名、パラチフス三七名、コレラ二名計四